

# 首都圏中央連絡自動車道 おうめ ひ で 青梅IC～日の出IC間の建設事業

受賞機関 日本道路公団東京建設局八王子工事事務所  
国土交通省関東地方整備局相武国道工事事務所

## はじめに

首都圏中央連絡自動車道は都心から半径約40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの高規格幹線道路であり、首都高中央環状線、東京外かく環状道路と一体となって、首都圏の幹線道路の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、首都圏の交通混雑緩和に大きく寄与することが期待されている。

また、多摩地域で不足している南北方向の新たな幹線道路として機能し、周辺道路の混雑緩和、行動範囲の拡大などに大きな期待が寄せられている。

本事業は、国土交通省・日本道路公団の合併施行により進めており、このうち、青梅IC～日の出IC間の8.7kmが、本年3月29日に開通したところである。



## 事業の概要

事業名：首都圏中央連絡自動車道

青梅IC～日の出IC間の建設

工事期間：平成3年7月～平成14年3月

事業費：約1,800億円

## 事業の特徴

本事業は、多摩地域の自然の豊かな丘陵地帯を通過していることから、多くの学識経験者や専門家などの広範な意見を聞きながら、さまざまな環境保全対策を実施している。「自然との調和」をテーマにト



青梅市河辺町上空から県央道  
多摩川橋友田高架橋を望む

青梅インターチェンジ

ウキョウサンショウウオなどの貴重な動物の保全、オオチゴリなどの貴重な植物の移植、のり面などへの樹林の創造など、自然環境の保全・創出に取り組んだ。

また、市道直下を通過する青梅トンネルにおいて、施工時の沿道環境保全、用地費を含む経済性等の比較検討を行い、国内初のNATMによる卵型上下二層構造を採用した。それに伴いトンネルと連続する多摩川橋では、上下線が二階建て構造となるダブルデッキトラス橋を採用した。さらに、橋梁・高架などの構造物については、周辺の景観に調和したデザインを検討し、採用した。

豊かな自然を守るため、環境保全に積極的に取り組む他、インフォメーションルームを設置し、積極的な情報提供を行うとともに、各種イベント等を通じ、地域活動と連携しながら進めてきた事業である。

本事業の完成により、中央道までの接続が一步近づいたが、今後も、安全を第一に考え、地域に親しみのある道路を造っていききたい。

受賞賛助会員 (株)安部工業所、石川島播磨重工業(株)、(株)大林組、(株)大本組、(株)奥村組、奥村組土木興業(株)、オリエンタル建設(株)、鹿島建設(株)、川崎重工業(株)、川田建設(株)、(株)北野組、木原建設(株)、極東工業(株)、(株)鴻池組、駒井鉄工(株)、佐田建設(株)、清水建設(株)、住建道路(株)、住友金属工業(株)、住友建設(株)、大成建設(株)、大成ロテック(株)、大日本土木(株)、鉄建建設(株)、(株)東芝、東洋建設(株)、戸田建設(株)、飛鳥建設(株)、西松建設(株)、日本舗道(株)、(株)ピー・エス、(株)富士ビー・エス、(株)フジタ、(株)本間組、みらい建設工業(株)、三菱建設(株)